



## 読み応えのある 「特集」に感銘

北海道歯科医師会  
社会保険担当常務理事  
龍方省二

執筆者70余名のたいへん読み応えのある「特集」に感銘を受けました。固いテーマにもかかわらず各人が形にこだわらずに、各地区の地域事情や医師としての心構え、生き方等の話もあり興味深く拝見しました。私も医療関係者の一人として大きな関心を持つとともに、医科の現状に対する知識はあまりありませんが、少し考えていることを述べたいと思います。

私は現在、北海道歯科医師会で社会保険担当常務理事の立場にあり、昨年は改定年でもあったので、保険診療報酬の掘り起こしとして、各施設基準の見直し等を会員に提言してまいりました。施設基準の取得には“病院との連携”という1項目があります。この件について2、3の会員から近くにある国保病院が診療所に変ったが施設基準として大丈夫なのかとの質問があり、「病院」について少し調べてみました。厚労省のホームページから北海道の病院数を調べますと、道内には579件の病院があり（平成23年10月）、179市町村のうち病院があるのは118市町村、61市町村に病院がないという現状でした。また、579件のうち、206件が札幌に集中している状態であり、道内の医療施設に変動が起きている程度の認識しかありませんでした。しかし今回の「特集」を拝読すると、そういう単純な話ではなく、北海道はまだまだ病院が過剰で思い切った病院の集約化を進めなければ、医師不足、偏在の解消にならないという意見に正直驚きました。

「特集」で提起されている社会、医療、行政、医師、患者（国民）が複雑に入り組んだ北海道の医療崩壊をどう食い止めるのか、どう解決するのか、という大きなテーマへの解決までの過程のイメージすら全くつかめません。「道の対策はやり尽くした」という意見や一つの問題に対して、たとえば「新医師臨床研修制度」には正反対な意見があることに問題の深さを感じます。そのような観点から考えますと、最終的には行政というか政治が解決するしかありません。

一昨年、当時の厚生労働省大臣官房審議官を招聘して、本会主催による夏期セミナーを開催いたしました。内容は社会保障・税一体改革に関連した、これからの医療・介護関係の論点についてでした。講演では「日本の医療には、①国民皆保険、②フリーアクセス、③民間病院が多い（8割が民間であり世界で1番多い、ヨーロッパではほとんどが公立）、と

いう3つの特徴があり、この3点がセットになっていることから、病床数が非常に多く、スタッフが少ないという現状となっています。そのため、日本の医療提供体制をどのように再編するかというのが問題になっているのです。今後の医療の方向性はこの一体改革案の内容通りに進んでいくのは間違いなく、次の改定に影響が出てくるのは当然のことで、医療提供体制の効率化および重点化、機能強化については医師、看護職員の確保対策、改革の具体策として、平均在院日数の短縮を目指しています」とのお話がありました。

現在は政権が変わりましたので、今後の社会保障・税一体改革案の方向性がどうなるか分かりませんが、日本国民にとって誇りともいえる日本の医療制度が、さまざまな環境変化により日本社会の大きな悩みと化したのは間違いないことです。そしてその対策の議論はかなり前から行われていたにもかかわらず、一向に解決策が見つからず進んでいないということだと思います。

今はネット環境が整備され、いろいろな情報が個人でも自由に手に入る時代になりました。厚労省ホームページを閲覧すると医療計画に記載されている救急医療体制体系図や、へき地医療対策の第11次へき地保健医療対策鳥瞰図（平成23年～平成27年）等は素晴らしいのですが、今回の「特集」を読ませていただいた限りでは、現状や現場の声を知らず、策定された計画とは大きな隔たりが感じられません。国と自治体の連携はうまくいっているのでしょうか。

将来の理想的な医療の実現には多くの時間を要することが予想されます。その間の医師不足、医師偏在によるへき地対策をどうするか、私の浅知恵で考えたことはまさに厚労省ホームページにある「地域医療支援センター」と同じことでした。その目的の第1番目に「都道府県が責任を持って医師の地域偏在の解消に取り組むコントロールタワーの確立」とあります。これはどの程度機能しているのでしょうか。私は北海道を行政地区だけで区分するのではなく、連携を取りやすいつながりのある医療機関の場所で区分し、その上に地域の医師在籍状況が一目でわかる医師派遣センターを配置し、今までの医師を探す自助努力と地域連携での助け合いでなんとか凌げないかという提案です。障害は当然出てくると思われませんが、センターを機能させ対処しなければならないと思います。

歯科もいろいろな問題を抱えています。組織として何ができるのかを常に問題提起し議論をしています。そして行動を起こすことを決して休んではいけないと思っています。